

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371501277		
法人名	(有)スリーハンズ		
事業所名	グループホームなでしこ猪子石原 1階		
所在地	名古屋市名東区猪子石原2-717		
自己評価作成日	2019年11月27日	評価結果市町村受理日	令和2年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2371501277-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	令和2年1月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・人生の先輩として、人生や生き方を尊重し、敬語や自己決定を基本として一方的な援助ではなく個人が主体的に暮らせるよう、柔軟で細やかな配慮を欠かさない事で自立に繋げている。 ・ご家族との良好な関係が継続できるように宿泊や来訪・外出はいつでも受け入れ、小さな変化も伝えて情報を共有し、ご家族の意向を確認してケアの方向性を相談している。 ・日常的に手作業や脳トレプリントを促し『やる事がある』生活作りを方針としている。 ・レクリエーションの他、家族やボランティアによる楽器の生演奏が頻繁にあり、日常的に音楽に触れて楽しむ機会を設けている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>◎軽減要件適用事業所 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事務所に掲示して毎月のスタッフ会議の冒頭で必ず理念の唱和を行っている。会議で話し合ったり、考えたりする時間も定期的に設けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	民生委員主催の食事会に参加したり、サロンの開催場所として当ホームを利用してもらう事により、地域との関係づくりに努めている。年2回の祭りには近隣の方の参加が定着してなじみの顔が増えている他、家族やその友人による楽器演奏会や近所の方のボランティアも定期的にある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	いきいき支援センター主催の”認知症の家族会”や民生委員主催の食事会では講師として、認知症の人の現状や関わり方、支援方法等を広く知ってもらう機会がある。また自治会主催の地域清掃にも参加して、実際に認知症の人関わってもらう事で理解してもらえるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	自治会長・民生委員・他法人のグループホーム管理者・入居者の家族・地域包括支援センターの方々に参加いただき、当ホームの現状報告や地域の有用な情報をもらう等の意見交換を通してサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	対応に苦慮した場合や適正な判断に迷った場合等に地域包括支援センターに相談をして意見を求めたり、指導を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	実際にベッド上で四肢拘束による『身体拘束』を受け、肉体的・精神的な苦痛を体験した上で意見交換をする研修を行っている。玄関は夜間以外は施錠せず、見守りを強化する事で定期的に単独外出される方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内部研修等で、『虐待』について学ぶ機会を持ち職員全員に徹底している他、他スタッフのケアに違和感を感じた時に気軽に話し合えるような土壌を作る事で、虐待に至らないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	一部のスタッフは外部研修を受け一定の理解はあるが、理解度の差が大きい。会議等で話題に上げるが突き詰めて考える機会が少なく充分とは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	本契約前の10日間のお試し入居期間に、家族の無料宿泊や時間制限のない来訪を勤めて入居後の生活を体験してもらい、疑問や不安の解消に十分な時間をかけて丁寧に説明をして、理解や納得を得た上で本契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に2回の家族会の内容はスタッフ会議で検討している。家族の来訪時にはコミュニケーションを積極的に取り気軽に意見や要望を話していただけるように努めて、苦情にも迅速に対応するようにしている。玄関には意見箱を設置しているが使用されている事は殆どない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に2回、代表者に意見提案書を提出する機会がある他、希望に応じて面談も随時可能。要望や意見に対しては代表から返答があり、必要な内容については反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の人事考課では他者評価の結果が賞与に反映されており、個々への努力ややりがいの促しとなっている。また自己目標を提出し各自が改めて自分の働き方を振り返り、考える機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	雇用形態を問わず内外の研修受講の機会を設け、スタッフ会議での研修報告で内容を確認し全員で共有している。また年2回の身体介護テスト後の振り返りと指導で、各職員の技術の向上に努めている。新人職員への指導は力量を見極めながら丁寧に行い、担当のスタッフへのアドバイスも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	愛知県グループホーム協議会に入会し研修等に参加する機会を設けている。また他のグループホームと運営推進会議の委員として定期的な相互参加で情報交換を行い、サービスの質の向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人の情報を事前に家族から書類で提出してもらい、時間をかけて丁寧に関わりながら安心して生活出来る雰囲気作りに努め、不安感の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	初期の見学や面談時には入居当初の環境変化のリスクの説明も含め、本人や家族と十分に話す時間を設けて、想定される事態や課題の把握に努めている。入居後にはケアカンファレンスに参加してもらい抱えている課題の解決へ向けて家族の要望を聞き、信頼関係を深めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	可能であればお試し入居前に当ホームでの数時間の滞在を勧め、その様子を見てサービス導入時のスムーズな支援に繋げている。計画作成担当者が入居前のサービス利用についても情報を収集し支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様の慣れ親しんだ活動を継続する機会を作り、自主性をもって暮らせる環境づくりに努めている。人生の先輩として尊敬の意をもつ事は忘れず、その中で様々な感情を共有できる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	いつでも来訪してもらえるよう来訪は24時間可能。本人の要望に応じていつでも家族と連絡を取る事ができ、家族に参加してもらえる行事を企画する等して本人と家族に良い時間を共有してもらうように努めている。日常の心温まるやりとりを家族に報告したり、支援の方向性を一緒に考える時間を多く持つようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	定期的な帰宅や墓参りをされている方がみえる他なじみの方の訪問を歓迎している。本人の習慣だった外出等も可能な限り継続してもらえるよう家族とも相談しながら支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	身体状況や理解度、性格等を正確に把握し共同作業等を通じて様子をみながら、気持ちよく関わり合えるよう、その関わりを継続してもらえるようにしている。どなたにも必ず良好な関係の仲間の存在があり、孤立せず支え合ってみえる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も転居・入院された次施設の訪問や、死亡退居後も家族がボランティアや包丁研ぎに来訪されたり、贈答品が届く等、関係が継続している家族もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話や表情から汲み取る習慣付けや、カンファレンスでは意見交換による情報共有を行い、日々の言動を深く掘り下げる事で可能な限り本人の想いの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	各入居者の習慣や生活歴等を入居時に家族やケアマネ等から情報収集している。またケアカンファレンスの家族参加時に直接口頭で細かい情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の生活の様子を記載する記録書類で把握する他、スタッフがそれぞれ各入居者と万遍なく関わり、知り得た情報をカンファレンスや日々の情報交換で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアカンファレンスには家族に参加していただく機会を設け、家族からの情報や日々のケアでの気づき等の意見交換を行い、課題についても協議している。医療関係者やマサージ師とも情報を共有し、ケアプラン作成に生かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の生活記録は個々のケアプランに基づいた書式となっており、情報共有の重要資料となっている。毎月のケアカンファレンス時には各スタッフが事前にモニタリング書類を提出しケアの検証・再考をするほか、常に職員間で情報共有できるノートを作り、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個別ケアを基本としている為、直前の買物や外出の要望があった時はできる限り優先し、予定を変更して対応している。本人の状態を検証した上で家族から了承を得て、単独で外出される方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の飲食店で昼食やおやつを食べたり、買物や公園を散歩する等近所の資源を活用している。また定期的に地域行事に参加したり地域住民のボランティアを通じた関係づくりで豊かな生活を支援している。運営推進会議等で常に地域の新しい資源について情報を得て支援に活かしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時にかかりつけ医の継続か当ホームと提携の医師に変更するかは選んで頂いている。家族の依頼や希望により往診時の同席は自由で直接やり取りもできる。往診医以外で受診される場合は通院時に書面で情報を提供している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の定期訪問の訪問看護ステーションは24時間体制でサポートを受けられる他、体調変化時には状況に合わせて医師へ情報を伝え、詳細を定期的に報告している。ケアの方法や注意点等も指示を受ける等適切な支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には心身情報が時系列で分かる往診ファイルや介護サマリーで情報を提供している。入院先のケースワーカーや担当看護師との情報交換で早期退院を目指し、退院後は状態に合わせて適切な対応が出来るように備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時には当ホームの看取りに対する方針を書面で提示すると共に、一年毎に事前指示書の更新を依頼している。重度化した場合は家族がかかりつけ医と共に話し合う場を設け、希望を確認して支援方針を決めている。合意した内容は書面で明示し、状態変化に応じてその都度確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	内部研修やスタッフ会議やケアカンファレンスで定期的に内容を振り返り、知識の共有と実践力を付ける事で、いざという時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	内部研修で地震や火事等非常災害を想定した訓練を毎月行っており、緊急時避難場所へも避難している。運営推進会議にも災害に対しての取り組みや地域での取り組み等の情報を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩として敬意をもって、決して指導的にならないよう常に注意している。自尊心を傷つけないような言い方や、プライバシーが守られるよう細やかな配慮とその人に合わせた声かけを意識して対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	意思表示が困難だったり控え目な方でも思いを表出できるよう選択肢を多くしたり、日々の小さな事でも職員が決めつけずに常に本人が考えて決められるように声かけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の大まかなタイムテーブルはあるが、買物、散歩、入浴等ご本人の希望通りになるように、職員全員で日常業務を工夫してできる限り本人主体の暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	化粧をされる方、髪型、洋服の組み合わせに拘りのある方、ネックレスを付ける方等その人らしさが失われないように働きかけ、それを継続していただいている。違和感があればさり気ない声かけで、その人らしさが引き出せるような着こなし等を提案させて頂いている。毎月訪問理容があり、美容への関心の継続にもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	『包丁使用も含めた食材の下準備』『火気使用を含む調理』『盛り付け』等、その方に合わせて積極的に役割を持っていただけるよう声かけしている。その時季の旬の食材を使った献立の相談をしたり、誕生日にはその方の好物を取り入れた献立にしている。机拭きや食器拭き等も一緒に会話しながら楽しく行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量は個々の習慣やその時の体調に合わせてながらも過不足のないよう提供し、バランスのとれた栄養と水分量の確保に努めている。食事形態も咀嚼や嚥下の状態に合わせて対応すると共に、度々声をかけて嗜好にも配慮しながら必要量が飲食できるように働きかけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	入居者様の状態に応じた口腔ケアを実施している。週4日の義歯洗浄消毒を行っている。個々の状態に応じて定期的な歯科往診時には、医師へ情報提供を行った上で、指導を元にしたケアで清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	定期的なトイレ誘導の他、排泄の失敗を防ぐ為に、尿及び便意時のサインを確実にキャッチできる様にその時の言動や表情の情報共有を行い、ケアに活かしている。失禁量に合わせて多種類のパッド等を使い分けて自立支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	乳製品や十分な水分摂取の促し、適度な運動等で自然な排便と便秘予防に努めている。また必要に応じて医療者の指導の下、便軟化剤の調整も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴剤の使用や希望の時間や方法で入浴してもらおう等、個々の状態に合わせて楽しむように努めている。時には断りやすい声かけをしたり、強制感のない雰囲気ですぐ気持ちよく入っていただいている。入浴の難しい方には清拭・手足浴・ドライシャンプー等で個別に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の体調や状態に応じて日中に臥床を促しているが、30分を目処に声かけし過度の臥床による夜間の不眠を招かないように注意している。夜間に不眠傾向の方には昼間に散歩や脳の活性化を促して、薬に頼らない自然な安眠を目指している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人の往診ファイルに最新の薬の説明書を添付して処方薬が一目で分かるようにしている。処方薬の変更は申し送りノートに記入するほか、ケアカンファレンス時に家族も参加して薬剤師から服用中の薬の説明を受けて、状態の把握に活かしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の特性を生かし、歌、折り紙、お手玉、写字・写経、計算ドリル、ことわざ、裁縫等のアクティビティや調理等の家事を楽しめるような環境作りをしている。居室での自由な間食や近隣の店への買物、毎日の散歩を楽しむとされる方もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	毎日散歩に出かけられたり家族の了承を得た上で単独で外出される方もいる。屋外食は楽しめる方が多く、頻りに機会を設けている他、おやつ外食は屋外食が難しいミキサー食の方も喜ばれている。また車で家族と一緒に近所の季節の花を見に行ったり動物園へ出かける事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理が出来る方には家族の理解が得られれば、小遣い程度を自己管理して、買物も自由意思で行かれて支払いも自分でされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	一部の方は当ホームの電話や自己所有の携帯電話から家族や知人へ自由にかけているが、家族や親族から手紙が来ても返信する事が難しい方が殆どである。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	空調や採光の調整は小まめに行い、快適に過ごして頂けるよう心掛けている。トイレは車いす用に広い箇所もあり、リビングにはソファを配置し自由に使えるようにしている。また、季節の花を飾ったり、行事の写真を貼る等、居心地良く過ごしていただけるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビング内にソファがあり、庭へもウッドデッキから自由に出入りされている。入居者同士で誘い合い居室で一緒に過ごされる姿も見られたり、席替えをする事で新しい関係が生まれる事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時から寝具・小物等出来るだけなじみのものを持ち込んでいただき、前住居からの継続した暮らしを支援している。個々の状態に合わせ配置の工夫をし、仏壇があったり家族からの贈り物や家族写真を飾られている方も多い。趣味の雑誌や編み物道具、裁縫道具等の好みの物に囲まれて暮らせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室、トイレは分かり易いように大きく名前を表記してある。全面バリアフリーで、安全且つ自立を妨げない環境作りに努めている。どの位置からも入居者が分かり易い間取りとなっている。		